

第十四回 上林曉忌短歌大会

入賞作品

選者 高野 公彦 先生

【特選】

14 ショウガ煮の鰹の心臓食いおれば伊豆沖漁場のなぶら目に浮く

黒潮町 竹下芙佐雄

32 カーテンの隙間に見ゆる夜明け空わが名忘れし姑に添ひ伏す

香美市 町 耿子

79 梅雨の晴れ間独居の人を訪えば筆談ボードと笑顔が待ちおり

四万十市 坂下多恵子

【植田馨賞】

33 ほととぎすの声さやかなり朝のラジオはアメリカイランの対立伝う

黒潮町 谷脇 巴

【秀作】

21 孫来ぬを寂しむ夫は三つめの風鈴吊るし音の違ひ言ふ

香美市 古川 安子

44 すいすいと水の上をゆくアメンボウ青田のなかにとおき夏あり

高知市 山脇 志津

52 五百重波くぐりし伊予の青石を据ゑて夫亡き七年を過ぐ

丸亀市 宮西 史子

72 上林暁の学びし文机撫でをれば松原越しに潮風吹き来

四万十市 安田やすよ

78 あす倒す杉の太きを思ひつつチェーンソーの刃を時かけて研ぐ

須崎市 徳永 逸夫

【佳作】

3 土讃線運休の雨たつぷりと溜めて車窓に触るる紫陽花

佐川町 市川 浩司

6 薬莢の判が父より残されて覗けば吹くよ満州の風

四万十市 北村 卓弘

19 明日入院の夫との夕餉は黙しぎみ菜とる箸のこつりとひびく

土佐清水市 不破 陽子

24 四時間を命のたたかひ透析の夫思ひつつ躑躅刈りゆく

須崎市 廣見 正子

36 日曜の夜をふうせんは天井に押されつつ見る眠るおさを

土佐清水市 倉松こずえ

37 にこやかに皆に抱かれる赤子ゐて面会室に老いは賑はふ

四万十町 窪田詩都子

48

梅雨入りし梅雨の晴間にふきを採り湯通ししては今日のリハビリ

四万十町

小畑 信子

59

梅の実の頬紅色に染まるころ四国南部は梅雨に入りゆく

土佐清水市

池 英夫

65

小賀^{おが}玉木^{たまき}に帝揚羽は渡りきて鹿島の杜に夏は来にけり

土佐清水市

田村 絹恵

76

空耳の「ただいま」の声もう一度座り直して聞く風の音

高知市

川村 幸子